

平成19年(昭和82年)4月10日(火)

東海の古代

第 82号 編集・発行 古田史学の会・東海

代表 林 俊彦 〒461-0025 名古屋市東区徳川1-729

ホームページ: (「古田史学」で検索しても見つかります)

<http://geocities.jp/furutashigaku-tokai>

メール: frrtokai@zm.commufa.jp

電話/FAX(カラー可) 052(936)5012

郵便振替 00870-5-30752

同行した竹内さんによると古田先生の南米渡航は決して「無事」に終始したわけではないようです。八十歳を越してなお地球の裏側に行ってまで学問の真実を追い求める、古田先生の姿勢に感服します。続々と発表される先生の成果は東海の会の例会でも紹介して行きます。

国造碑の証言

ここ数年来古田先生はとんでもない仮説をたててきました。白村江の戦いの後、唐の軍隊が2000名ずつ2回、計4000名余やってきた。しかし指揮官の帰国記事はあっても軍全体が帰ったという記事はない。よってこの唐軍は日本を長期占領した、と。

先生、それは無理でしょう。日本側に記録が無いだけでなく、中国側の史書にも一切日本占領の記事はないのですから、と思わざるをえません。特に下記の記事は致命的と見えました。

初め唐にいたるとき、人あり、来たり問いて曰く、「何れのところの使人ぞ」。答えて曰く、「日本国の使」。わが使、反問して曰く、「此はこれ何州の界ぞ」。答えて曰く、「是は大周、楚州、塩城県の界なり」。さらに問う、「先にはこれ大唐、今は大周と称す。国号、何によりてか称を改めたる」。答えて曰く、「永淳二年、天皇大帝(高宗)、崩じて皇太后(武后)位にのぼり、称を聖神皇帝、国を大周と号せり」。問答ほぼおわり、唐

人、わが使にいて曰く、「しばしば聞く、海東に大倭国あり、これを君子国という。人民豊楽にして、礼儀敦くおこなわる、と。いま、使人をみるに、儀容はなはだ淨し。あに信ならずや」。語おわりて去る。

〔続日本紀慶雲元年(七〇四)秋七月条〕

八世紀最初の遣唐使は、このように現地の役人と奇妙な会話を残しています。占領された国の使者が占領した国の国名変更も知らずにいる、という事態はありうるでしょうか。

ところが

永昌元年(六八九、持統三年)己丑四月、飛鳥浄原大宮より、那須国造・追大壺を、那須直・韋提評督(は)賜わる。歳次庚子年(七〇〇、文武四年)、正月二壬子日、辰節、^{みま}弥かる。故に、意斯麻呂等、碑を立て、^{しの}銘して^{しか}偲びて、云うこと^{しか}尔あり。……(那須国造碑)

古田先生も評制実在の証拠として取り上げた、今も栃木県にある金石文です。あまり堂々と刻されているので、今まで気づかなかったのですが、「永昌元年」とは中国の年号です。しかも則天武後の時代(在位六九〇～七〇五)の年号です。通説では当時、日本(倭)と唐(武周)の国交はなかったはず。それで関東に住んでいた新羅系の渡来人から知識を仕入れ使ったのだろう、と説明されています。そんなものかな、と思い込んでいたのですが、やはりおかしいのです。地方の古代人の舶来趣味では説明できません。日記の片隅に気まぐれに書いてみました、というケースではありません。石に刻み、末代まで伝われ、と残された言葉です。年号は国家の権威・秩序の枢要に拘わる言葉です。地方豪族の表現の自由に属する言葉ではありません。

現代日本ですら、西暦表記が広まったのは、アメリカ軍が駐留した戦後のことです。外国年号の使用は尋常な事態ではありません。

白村江の戦いを背後から指揮したのは則天武后です。関東からも多くの兵が動員され、戦場で命を落としました。未帰還の者も多かったでしょう。武後の年号を使用するというのは、関東の民

衆の心を逆なでする行為です。時の倭国の権力を否定する行為でもあります。この年号表記の合理的説明はただ一つしか存在できません。当時の日本(倭)は唐(武周)に占領されていた、これです。

則天文字の意味

このように考えを進めると、大きな傍証が目に入ってきます。則天文字です。

則天武后が在位中に作った奇妙な文字群があります。その権力が健在な間しか通用しない文字ですから、未だに何文字作ったかも判明しないのですが、なぜか日本では普及してしまいました。「日本占領」の証拠になりませんか？

八世紀二度目の遣唐使は、元正女帝の靈龜二(七一六)年八月に発令されました。その中に留学生吉備(当時は下道)真備がいました。真備の父親の名は「罔勝」(その弟は「罔依」)でした。もちろん「罔」は則天文字です。この下道一家の機敏さがその後の真備の出世を支えたのでしょうか。一宮市門間沼遺跡から出土した土器にも「天」にあたる則天文字が書かれています。「唐軍占領」という事実なくして、こうした地方にまで則天文字が普及するという現象を説明できません。

桓武の決断

私たちは続日本紀にだまされてきたようです。①淳仁朝に藤原仲麻呂らによって、文武天皇元年より天平宝字二年までが、三十巻にまとめられた。②光仁朝にこの三十巻を、石川名足・淡海三船・当麻永嗣らが修正・増補した。③桓武朝に右を管野真道・秋篠安人・中科巨都雄らが再訂して二十巻にまとめ、別に天平宝字二年以降、延暦十年までを二十巻とし、計四十巻に構成した。このような編纂過程が知られていますが、桓武天皇の強力な指導の下、大幅な歴史の改ざんがなされたのではないのでしょうか。桓武は「唐の占領」を「なかったことにする」道を選んだのです。続日本紀以降の史書はおおむね正しいことを書いてある、という私達の常識はくずれようとしています。

5月例会に参加を

日程：5月13日(日)午後1時半～5時

場所：名古屋市市政資料館第1集会室

名古屋市東区白壁1の3(名古屋拘置所南)

地下鉄名城線「市役所」下車、東へ徒歩8分

名鉄瀬戸線「東大手」下車、南へ徒歩5分

市バス「市政資料館南」下車、北へ徒歩5分

〃 「清水口」下車、南西へ徒歩8分

〃 「市役所」下車、東へ徒歩8分

一応、駐車場有(無料)12台収容

南隣にウィルあいち(愛知県女性総合センター)／地下駐車場30分170円

参加費：500円(維持会員は無料)

今後の予定

6月例会：6月10日(日)

7月例会：7月8日(日)

例会は原則として毎月第2日曜日です。会場は当分資料館で固定するつもりです。ただし予約の都合により部屋が変わる場合があります。よく確認してからお出かけください。

古田先生とその学問に興味のある方ならどなたの参加も歓迎します。また参加に際し事前連絡は不要です。遅刻早退もかまいません。

例会の場での研究報告、見解発表は大歓迎です。資料を配布される場合はなるべく16部用意願います。